

@幸せな贈り物

この涙があつてこそ その中で真理を見ることができます



夏が真っ盛りに向かっているとき、現場で出会ったある伝道者の告白に人生の価値が何か深く考えさせられるようになりました。

人間には3種類の重要な液体があります。血、汗、涙…

血はいのちです。汗は水分です。そして、その間にある重要なものが涙です。涙は真実を話してくれます。私には3種類の涙がありました。

過去の傷によって流すしかなかった痛みの涙がありました。

私は、幼いとき、韓国になぜ朝鮮戦争が起きたのか、私の家はなぜ火災にあつて苦難にあわなければならなかったのか、私の家はなぜ貧困に苦しんだのかよくわかりませんでした。父が亡くなって言葉で表現することが難しいくらいの困難が多くありました。私はあまりにも苦しくて、人々の前で泣くこともできませんでした。隠れて一人で泣きました。

ところで、ある日、知るようになりました。その涙が私を完全にどん底にずっと追い込んでいるという事実を…それで「あっ、この涙ではない」と思いました。そのようなある日、私が重要な事実を知るようになりました。

そのとき、感謝の涙を知るようになりました。人間がいくらもがいても、理由なく繰り返す苦難と呪い、未来に対する不安、何か知らない闇の勢力がもたらす不幸を防ぐことができないということを悟るようになりました。

そのようなある日、人間の根本的な不幸に対する人生の答えを知るようになりました。「あっ、この涙だな! 私の過去の傷が傷ではない。私の人生の土台だったのだな!」その事実が見え始めました。



ところで、ある日のことでした。

「この涙でもないな!」ある日、他の涙を知るようになりました。「あなたにとっても多くの祝福をすべて上げたのに、知らずにいるのか。そして、あの世の中にいる人々は、立派な人々ではなく、死んでいっているのだ」その涙が見え始めました。その時から私は変わり始めました。

それまで私にあった過去のすべての傷は、祝福の土台に変わりました。私がいるすべての現場は神様の理由ある現場という事実を知るようになりました。このときから目が少しずつ開かれ始めました。国会議員が選挙の時になれば票のために私にきて挨拶するのを見て哀れで、芸能人が笑いながら歌って踊るようですが哀れで…多くの人が幸せなように見えますが、だましているということを知りました。多くの人が千人ならば千の言葉、万人ならば万の言葉をいっているということを知りました。

それで、私は決断を下しました。

「私は神様だけ見上げる!」この小さい告白は私の未来にすばらしい答えを与えました。親を愛して尊敬しますが、どんな状況の中でも神様を見上げると決断しました。私は世の中に行ってすべての人に仕えながら、神様を見上げると決断しました。「世の中のどんなのもうらやましくなくて、恐ろしくない。なぜか。彼らは隠された苦しみの中で死んでいっている」その涙が私にあります。多くの人が成功するために努力して、10%の中の1%の中に入るためにもがきます。それが成就すれば、はたして成功でしょうか。神様はこれにおっしゃいました。「私はあなたの仕事より、あなたをもっと愛している」オリンピックに出たサッカー選手を見て、こういう話をしてあげました。「あなたはサッカーのために生きないで。サッカーがあなたのためにあるようにしなさい。あなたは神様のために生きなさい。人生はそんなことのために生きるのではない」これらがすべて、みな私のためにあるのであって、私がこういうもののためにいるではありません。この涙があつてこそ、その中で真理を見ることが出来ます。何もない私に、行く所ごとに神の国が臨みました。

一番良い祈り、一番良い涙はこのようです。

「神様、私はなぜ神様の恵みを味わうことができないのでしょうか。私はなぜ神の子どもたちの祝福を味わえずにいるのでしょうか」人生を見る涙が違わなければなりません。私の傷は感謝の涙に変わらなければなりません。多くの現場で私が受ける困難は、使命の涙に変わらなければなりません。そうすれば、すばらしい答えがずっととき始めます。

運命のひもを解いて私を幸せな人生に導いてくださった唯一の奥義、まさに「キリスト」でした。その方は、十字架で私に向かってこのように約束してくださいました。

あなたが解決できなかったその残忍な苦しみ、そして運命を解決した!
罪の欲望による呪いと、その中にかくされた暗やみの働きを解決した!
そして、創造主なる神様と永遠にともにいる幸せの道を開いておいた!
今日も私たちにこのようにおっしゃっておられます。

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」ヨハネの福音書 1:12

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」

聖日（主日）この日を覚えなさい

教会をご存知でしょうか。最近、「いったい教会がしていることは何なのか」という批判をたくさん受けています。ある人は、教会がなぜこんなのかと言うことすらあります。正確に言うと、教会がそうなのではなく、教会に通っている人がそうなのです。それでは、教会とは何でしょうか。教会の本質は救われた者、個人が教会です。（Ⅰコリント 3:16）それで、絶対にほろびることができません。そして、福音を持っている二、三人が集まった所が教会です。（マタイ 18:18~20）救われた者が座っていて、生きている現場が教会です。（使徒 18:1~4）信徒が礼拝をささげるために集まる教会堂も教会です。（使徒 2:1~13）天国も教会です。（ピリピ 3:20）教会は当然、救済もして、善行もしますが、それが教会の本質ではありません。教会は、どんな所でも言ってくれず、解決できない霊的問題を語ってくれて、その唯一の解決策である福音を知らせる所です。理解することができない呪いと運命の問題、たえず自殺を呼び起こすうつ病と精神問題、どんどん増加している犯罪と災いと未来の問題、背後で目に見えないように働くサタンの問題を唯一解決できる福音を伝える所です。暗やみに陥った者を救い出して、神様の子どもの霊的祝福を受けるように手助けする所で、永遠な天国を実現するモデルです。

聖日の祝福をご存知でしょうか。人生最高の祝福は、罪人に生まれたのに、義人の位置に立ったことで、滅亡の場から福音の位置に立ったことで、悪魔の子どもから永遠な神様の子どもになったことだと言えます。神様が私とともにおられる祝福を最高に確認して味わう時間が礼拝で、聖日（主日）です。水も流れる水の流れがあるように、神様の恵みも流れる流れがあります。この流れの中にいさえすれば、すべてのものは回復するようになります。これが聖日の祝福の奥義です。詩篇 100 篇で詩篇の記者が言うのに、礼拝をささげに行くことは、臣下が王の招きを受けて感謝をもって宮廷に入るようだといいました。大統領が共に食事しようと大統領府に呼んでも、どれくらい感謝で気持ちが良いのでしょうか。ところが、その大統領を思いのままにできる神様の前に礼拝をささげに行くのに、永遠な神様の祝福を受けに行くのに、どのように進まなければならないのでしょうか。神様の子どもは、どんな場合にも、礼拝を通して神様の恵みと力を得なければなりません。初代教会は、危機の時ごとに、問題の時ごとに礼拝を通して最高の答えの機会にしました。聖日には恵みを受けることに集中しなければなりません。教会の講壇を通して下さるみことばを握って、一日中、集中して祈るのです。そうすれば、必ずそのみことばの中で私が何をしなければならないという、私の小さい実践、私がしなければならない契約を握るようになります。このとき、聖霊が働いて私の行く現場に神様が先に主の御使いを送ってくださり、歩みごとに神様の計画が成されるようになります。残りの六日は、みことばが成就する日です。それで「聖日が私の最高の日だ!」このようにならないけません。そのとき、まことの信仰生活の味を味わうようになります。

神様の子どもになる

受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入れて来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの

毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



永遠を準備する 今日

人はだれでも今日を生きる。昨日は過ぎ去って、明日は来ていないので、生きるしかない日が今日だが、この日に持たなければならない価値がある。今日の生活が一日一日過ぎ去りながら、人は歳月を送る。明日になって振り返る今日は、今日に見る昨日とは違うようだ。そうして人は老いていっているけれど、事実はいくらも良くなっている。それゆえ、真の創造力は、若者よりは年上の人により一層明確にあらわれる。

年をとることにに対して否定的な人がいるが、今日を誠実に生きる人にとって、年をとることは未来に行く町角と同じだ。アメリカの元大統領ジミー・カーターが、大統領再選投票で落ちた時が56歳であった。それ以後、彼は22年間、北朝鮮とキューバ、ニカラグアなどを行き来しながら、平和の使節として苦労したことを私たちは知っていて、ハビタットという愛の家作り運動にも参加した。驚くべきことに、彼は78歳という年齢でノーベル平和賞を受賞した。ジミー・カーターは、年をとることを恨む人々に言ったのは「後悔が夢の代わりをする瞬間、人間は老い始める」ということだった。

日本のサバビアン化粧品会の会長であるイ・ジュヨンおばあさんが会社を設立した年齢が67歳であった。息子がお小遣をあげるからゆっくり休んでくださいと言う年齢に、彼女は会社を設立して日本と韓国を行き来しながら旺盛に事業をした。彼女は人生は60歳からだと断言して、「女の年齢はダイヤモンドのカラットと同じだ。60歳は60カラットダイヤモンドで、70歳は70カラットダイヤモンドだ」と言った。このように、短い人生だが、今日を正しく見つけた人は、何か人生の価値を見出して、希望の恵みを味わう。人を恨んだり、時間を恨む理由が、その人々にはないのだ。

神様が人生にくださった価値の中の最高は時間だ。だれにでも公平にその人生を通して価値を成し遂げられる機会を与えられたのだ。ほかの人がうらやましく思う生活を送る人々は、自分の時間を意味があるように見つけ出した人で、夢を発見した人だ。

今日の価値の中の最高は、まだ若さが維持されている時に創造者を発見することだ。創造者の存在は、その方が創造した創造物の中にその跡を簡単に表わさない。しかし、創造物を通して神様が現れることは、聖書を通して価値を表わす。人々は、とても簡単にその価値をさげすんだり、または、神様を知ることの恐れるが、創造者はそのような幼稚な条件でご自分を高めたり、人間を困らせる神ではない。人間ならば当然、人間の生活を通して追求する幸せを味わうようにされる。しかし、その価値がまことの幸せを与えるのではないので、生活の今日を通してその価値を持っていきなさいとおっしゃるのだ。

たくさん得たのに飽き足りない人々や、人生であまりにも多くのことを得られず、いつも足りなさを感じる人々がいるならば、今日を完全に生かす祝福を味わわなければならない。神様は今日の救いのために今日を生きる人々を呼ばれる。昨日の一日も私を生かすことはできず、明日の生活も私を保障してはくれない。神様を見出す者だけが、今日を通して過去と未来を生かすようになる。アメリカの16代大統領エイブラハム・リンカーンは「私はゆっくり行く人だ。しかし後退しない」と言った。救いの価値を準備した今日こそ、永遠の価値を見つけた人であり、前へ行く人なのだ。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ